

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

科学研究費助成事業

研究成果報告書



平成 29 年 6 月 29 日現在

機関番号：37501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26590205

研究課題名(和文)ジェネリックスキル育成における汎用的学修評価プログラムの構築と実践的研究

研究課題名(英文)Practical Study for Education and Evaluation Programs on Generic Skills

研究代表者

吉村 充功(YOSHIMURA, Mitsunori)

日本文理大学・工学部・教授

研究者番号：10369134

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、産業界が求める能力である「ジェネリックスキル」について、その育成方法と評価方法について実践的研究を行った。具体的には、ジェネリックスキルを評価するメタルーブリック及びオフキャンパス教育プログラムの作成を手始めに、学士課程教育全体、インターンシップ、高大接続のそれぞれにおいて使用可能なジェネリックスキルに関する個別ルーブリックの作成、実践及び外部評価テストとの関連を含めた妥当性の検証を行った。リテラシーの評価はルーブリックを用いた直接評価が、コンピテンシーの評価はリフレクションを通じた自己評価が有効であることを明らかにし、これらのノウハウを個別大学や公開セミナーを通じて普及した。

研究成果の概要(英文)：In this research, we conducted a practical study for education programs and evaluation methods on generic skills. Specifically, we created meta rubrics and off-campus education programs to evaluate generic skills. Next, we made, practiced, and verified the rubrics of the generic skills that can be used in undergraduate course education programs and internship programs, entrance examinations of university. As a result, literacy evaluation revealed that direct evaluation using rubric is effective. Evaluation of competency revealed that self evaluation by reflection is effective. We disseminated these education and evaluation programs through faculty development seminars of multiple universities and public seminars.

研究分野：初年次教育、土木計画学

キーワード：汎用的技能 ルーブリック評価 課題解決力 リフレクション PBL ジグソー学習法

1. 研究開始当初の背景

(1) 進学率 50%を超えるユニバーサル時代が到来した現在の大学教育においては、産業界が求めるニーズを反映した教育が社会的にも要請されている。こうした視点からの教育改善は、文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」や「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（以下、産業界 GP）」といった実践面から主に大学単位で行われてきた。これらの取り組みの結果、キャリア教育の範疇においてはそれなりの成果を生んでいる。しかしながら、これまでは各大学の試行錯誤の結果としてもたらされた成果が大多数であり、必ずしも体系的な成果として取りまとめられておらず、他大学が参考とし実践するにはかなりの労力を必要としていた。

(2) 産業界ニーズとして言及されるのは、経済産業省がまとめた「社会人基礎力」である。これは源流をたどれば OECD のキー・コンピテンシーやジェネリックスキル及び PISA 等のリテラシー概念に行き着く。これらの産業界が必要とする能力は様々な力として表現されてきたが、近年では「ジェネリックスキル（汎用的技能）」という概念で定着している。

(3) 以上のように、概念としては定着してきたが、各大学がいざ実践しようとするると困難に直面する理由は、その評価視点と方法が確立していないため、成長をどのように捉えればよいかが不明確であるからである。特にキャリア教育においては、ジェネリックスキルそのものが育成対象であることが多いが、その教育は実務家が担当することが多く評価の視点が欠落しがちである。インターンシップでは、大学側の関与が少なく、教育目標や評価が明確になっていないことが多い。

(4) こうした課題に対して、九州・沖縄産業界 GP では本研究グループのメンバーを中心とした学修評価グループが中心となり、キャリア教育において学修評価の仕組みを構築する試みを行ってきた。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、産業界 GP の中で試行してきたジェネリックスキル育成・評価プログラムを一つの教育モデルと位置づけ、理論的・実践的な検討を行い、ジェネリックスキル育成・評価の汎用的なプログラムの開発を目指す。特に、キャリア教育内で留まることなく、学士課程教育全体、特に専門教育の中に組み込み可能な汎用性を持つ学修評価プログラムの開発を目指す。

(2) 大学を越えたメタ・ルーブリックと、各大学のコモン・ルーブリック・科目ルーブリックとの関係性について教育方法を含む実

証的な研究を行う。

(3) ジェネリックスキル育成・評価プログラムを、オフキャンパス研修の形式で様々な大学において実践試行し、評価方法の「妥当性」「信頼性」「実行可能性」が高く、各大学の教員が現場レベルで使用できる評価方法のフレームワークを FD の指針として構築する。

3. 研究の方法

(1) はじめに、ジェネリックスキルについて、メタ・ルーブリックの構築とコモン・ルーブリック、科目ルーブリックの構築方法について整理を行い、ベーシックプログラムの教材と評価プログラムの開発、初年次教育におけるワークショップの試行を試みる。

(2) 次に理論的な検討を行うとともに、初年次教育プログラムの改善をはかる。また、専門教育においてもワークショップを試行する。実施の結果を踏まえ、汎用的な教育プログラムへの高度化を検討する。

(3) 最後に汎用的な教育プログラムの検証を行い、協力校を中心に全国へ展開する。特に、評価ツールは、産業界からの評価を踏まえ、有効性や実行可能性等を実地で検証する。また外部テスト等との関連性も検証する。

4. 研究成果

(1) 本研究グループでは、ジェネリックスキル育成のための教材として、参加者に「資料読解・分析、問題発見、アイデア提示、プレゼンテーション」というプロセスをグループで取り組むことにより、課題解決力と協働力を育成する汎用的学修プログラムを開発した。そして、このプログラムを大学間連携事業（産業界 GP）での学生及び教職員対象のジェネリックスキル育成ワークショップ（以下、「GS 育成ワークショップ」）、九州内にある国立大学での FD ワークショップにとして試行した。また、その参加者について、本研究グループが開発したルーブリックに基づき、プレゼンテーションの直接評価と、課題解決力・協働力の自己評価を試みた。ルーブリックの開発については、産業界 GP が開発したメタ・ルーブリックを本研究グループで改良したものを基礎として個別ルーブリックを作成して試行した。その結果、プレゼンテーションについては、プログラムに参加した学生と教員の評価がほぼ一致した。課題解決力・協働力の自己評価も、プログラムの事前実施したものより事後に実施したものの方が上昇した。以上より、GS 育成ワークショッププログラムのジェネリックスキル育成に対する効果と、ルーブリックを用いた評価の信頼性について、意義のある研究成果を出すことができた。

(2) GS 育成ワークショップと、産業界 GP の

複数の育成プログラム（チーム作り研修、インターンシップ、成果報告会など）を有機的に関連させて実施することができた。本研究グループと産業界 GP 採択校との連携・協力体制の強化のほか、評価の前提となる育成の狙いや達成目標の明確化、産業界 GP が実施するすべての研修について評価を試行することによる、研修参加者の成長のプロセスの可視化などの点で意義のある成果であった。

(3) ジェネリックスキルの育成と評価に関する理論的な検討についても進め、成果を論文、学会報告、招待講演、公開又は各大学の FD 研修等によって発信した。論文では、本研究グループの基礎となった産業界 GP の補助期間及び補助期間後に継続して実施された汎用的技能育成を目的とした PBL 型インターンシップを題材に、学生が自ら考え学ぶことのできるインターンシップ現場をデザインするために、大学側担当者がどのようなことに配慮して受け入れ企業と研修現場、そして学生をファシリテートすればよいのかを整理した。

(4) 各大学のカリキュラムポリシー等に合わせる形で、本研究グループが保有する教育プログラムをカスタマイズして提供することも実施した。これを実現するためには、本研究グループが対象大学の教務担当教員と繰り返し綿密な打ち合わせを行えるかが重要であり、十分に達成することができた。とりわけ、三段階の FD が有効であることを発見したことは大きな成果であった。つまり、第一段階として教育の狙いを座学で研修し、第二段階として当該の狙いを実現する教育プログラムの手法としてどのような手法がフィットするかを議論し、第三段階として体験型の研修を実施する、というデザインが有効であることが明らかになった。

(5) 学士課程教育全体を視野に入れたジェネリックスキル育成に関するループリック及び教育プログラムの立案・試行を行った。ここでは二つの方向性で整理した。すなわち、一つはジェネリックスキルをベースに専門的課題解決力を加味したループリックの立案と教育プログラムの試行である。これは研究代表者の所属校において、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)」での枠組みである地域創生人の育成として全学的な展開を行い、ループリックの妥当性を検証した。もう一つは高大接続を踏まえ、「知識・技能」に加え、ジェネリックスキル(思考力・判断力・表現力である「リテラシー」と主体性・多様性・協働性である「コンピテンシー」)を加味した「学力の 3 要素」に対応した入試の実施及びループリックによる評価の実践である。これは研究分担者の所属校を中心に研究代表者の所属校においても試行、検証した。

(6) 他大学の教員を中心に、汎用的技能育成を視野に入れたアクティブラーニングの方法について教職員 FD/SD 研修を延べ 10 回行った。内容は、課題解決力の育成を目的に学生に実践的な課題を与えながら、チームで協同し当該能力を育成する手法やその評価のあり方についての体験型 FD を中心に実施した。また、ディプロマポリシーの達成度を測るループリック作成のワークショップ FD についても実施した。

(7) 以上の研究を通じて、ジェネリックスキルを評価するメタ・ループリック及びオファキャンパス教育プログラムの作成を手始めに、学士課程教育全体、インターンシップ、高大接続のそれぞれにおいて、使用可能なジェネリックスキルに関する個別ループリックの作成、実践及び外部評価テストとの相関を含めた妥当性の検証を行った。リテラシーの評価はループリックを用いた直接評価が、コンピテンシーの評価はリフレクションを通じた自己評価が有効であることを明らかにした。この成果を松下の学修評価の構図 にあてはめると、図 1 となる。これらのノウハウを個別大学や公開の FD セミナーを通じて広く普及した。以上により、ジェネリックスキル育成の設計、実施、評価の各段階における有効な方策について明らかにし、本研究の所期の目的を達成した。

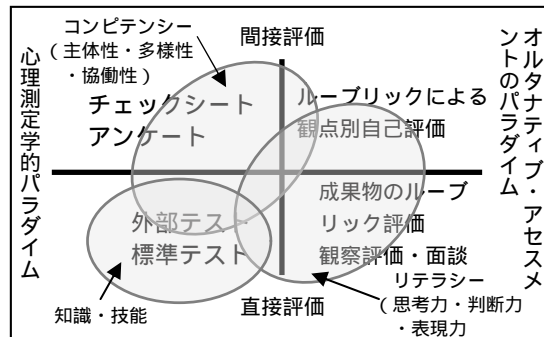


図 1 学修評価の構図と学力の 3 要素

< 引用文献 >

松下佳代、パフォーマンス評価による学習の質の評価、京都大学高等教育研究、18、2012、pp.75-114

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 14 件)

吉村 充功、島岡 成治、他 5 名、高大社の協働講座による地域人材育成の可能性、大学教育学会第 39 回大会発表要旨集録、査読無、39、2017、pp.220-221

島 義博、山本 啓一、他 3 名、北陸大学「21 世紀スキル育成 A0 入試」結果について - コンピテンシーの評価と活用 -、大

学教育学会第 39 回大会発表要旨集録、査読無、39、2017、pp.268-269

吉村 充功、山本 啓一、田中康友、高大
接続システム入試改革と学修評価 - 北陸
大学と日本文理大学での入試改革を例に
-、初年次教育学会第 9 回大会発表要旨
集、査読無、9、2016、pp.118-119

石川 勝彦、藤野 博行、吉村 充功、山本
啓一、梶原 健二、キャリア教育における
リフレクションの機能 - 産業界 GP 九州・
沖縄ブロック学修評価グループでの取組
から -、初年次教育学会第 9 回大会発表
要旨集、査読無、9、2016、pp.124-125

吉村 充功、坂井 美穂、ジェネリックス
キル育成を意識した入学前教育の作文課
題におけるルーブリック評価と日本語学
力の相関に関する一考察、日本リメディ
アル教育学会第 12 回全国大会発表予稿集、
査読無、12、2016、pp.158-159

高木 克明、田中 邦博、石川 勝彦、山本
啓一、辻井 洋行、重度障がい者雇用を促
進する企業における課題解決型インター
ンシップの取り組み(その 1)、九州共立大
学総合研究所紀要、査読無、9、2016、
pp.61-70

吉村 充功、山本 啓一、石川 勝彦、成瀬
尚志、藤野 博行、梶原 健二、多様な評
価の組み合わせによるジェネリックスキ
ルの評価と学生の成長の可視化、大学教
育学会第 37 回大会発表要旨集録、査読無、
37、2015、pp.100-101

山本 啓一、吉村 充功、石川 勝彦、成瀬
尚志、藤野 博行、梶原 健二、大学間連
携・学生連携によるジェネリックスキル
育成と課題解決型インターンシップの連
続的教育プログラム開発、大学教育学会
第 37 回大会発表要旨集録、査読無、37、
2015、pp.102-103

山本 啓一、吉村 充功、成瀬 尚志、藤野
博行、体験型学習等における評価とふり
返し - ルーブリックによる自己評価の妥
当性・信頼性を確保するために -、初年
次教育学会第 7 回大会発表要旨集、査読
無、7、2014、pp.52-53

吉村 充功、山本 啓一、成瀬 尚志、ジェ
ネリックスキル育成のための大学間連携
によるオフキャンパス合同合宿研修の試
み、初年次教育学会第 7 回大会発表要旨
集、査読無、7、2014、pp.140-141

〔学会発表〕(計 35 件)

吉村 充功、地域での学びを活かした大学

改革～おおいた地域創生人材の育成～、
宮崎学園短期大学 FD・SD 合同研修会(招
待講演)、2017 年 3 月 16 日、宮崎学園短
期大学(宮崎県宮崎市)

山本 啓一、学力の 3 要素を育成する初年
次教育および専門基礎教育～九国大法学
部・北陸大学大学教育改革実践事例、鹿
児島国際大学第 2 回 FD 講演会(招待講演)、
2017 年 3 月 16 日、鹿児島国際大学(鹿児
島県鹿児島市)

得丸 智子、成田 秀夫、大島 弥生、吉村
充功、山本 啓一、竹内幸哉、TAE(Thinking
At the Edge)ワークショップ、日本語表
現デザイン塾・北陸大学共同開催 FD セミ
ナー、2016 年 12 月 3 日、金沢歌劇座(石
川県金沢市)

吉村 充功、地域志向型教育の成果と課題
～おおいた地域創生人材育成の現場から
～、さかの未来を創る地方創生と人材育
成シンポジウム(招待講演)、2016 年 11 月
23 日、佐賀大学(佐賀県佐賀市)

山本 啓一、高大接続改革 - 学力の 3 要素
を育成する初年次教育と授業設計、九州
共立大学平成 28 年度第 1 回 FD・SD 研修
会(招待講演)、2016 年 9 月 12 日、九州共
立大学(福岡県北九州市)

吉村 充功、コモンルーブリックの作成と
運用に向けて～学修評価とディプロマ・
ポリシーの実質化～、九州女子大学家政
学部人間生活学科平成 28 年度第 2 回勉強
会(FD/SD 研修会)(招待講演)、2016 年 7
月 9 日、九州女子大学(福岡県北九州市)

成瀬 尚志、学生の主体的な活動を生み出
すプロジェクトとは？プロジェクト型学
習を取り入れた授業デザイン、京都外国
語大学 AP 研修会 PBL 分科会、2015 年 7 月
9 日、京都外国語大学(京都府京都市)

山本 啓一、成瀬 尚志、石川 勝彦、藤野
博行、ジェネリック・スキルを育成する
アクティブ・ラーニング型教育プログラ
ムについて～九州・沖縄産業界 GP 学修評
価グループの事例として～(ワークショ
ップ)、平成 26 年度第 3 回佐賀大学 FD・
SD フォーラム「アクティブラーニングの
実践と方法」(招待講演)、2014 年 12 月 9
日、佐賀大学(佐賀県佐賀市)

石川 勝彦、山田 俊、津曲 隆、熊本県立
大学における課題解決型授業の実践とそ
の評価 - キャリア教育の観点から -、第
63 回九州地区一般教育研究協議会、2014
年 9 月 6 日、九州大学(福岡県福岡市)

杉谷 裕美子、成田 秀夫、成瀬 尚志、山本 啓一、初年次教育における評価の実行性を高めるために(ワークショップ)、初年次教育第7回大会、2014年9月4日、帝塚山大学(奈良県奈良市)

〔図書〕(計2件)

成瀬 尚志、京都光華女子大学短期大学部、フォーラム「地域の課題解決は学生の課題解決能力の育成に繋がるか? - 課題解決型アプローチとソーシャルアクションアプローチ - 」報告書、2017、39

溝上 慎一、成田 秀夫 編、成瀬 尚志、石川 雅紀(第4章)、東信堂、アクティブラーニングとしてのPBLと探求的な学習、第4章「マップ作りを軸としたプロジェクト型学習 - 学部横断型ジグソー学習法の可能性」、2016、176(pp.69-88)

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉村 充功 (YOSHIMURA, Mitsunori)
日本文理大学・工学部・教授
研究者番号: 10369134

(2)研究分担者

山本 啓一 (YAMAMOTO, Keiichi)
北陸大学・公私立大学の部局等・教授
研究者番号: 30341481

成瀬 尚志 (NARUSE, Takashi)
京都光華女子大学短期大学部・その他部局等・講師
研究者番号: 60467644

藤野 博行 (FUJINO, Hiroyuki)
九州国際大学・法学部・助教
研究者番号: 20708713

石川 勝彦 (ISHIKAWA, Katsuhiko)
山梨学院大学・学習・教育開発センター・特任講師
研究者番号: 30714779

梶原 健二 (KAJIWARA, Kenji)
福岡女子短期大学・その他部局等・講師
研究者番号: 90726481